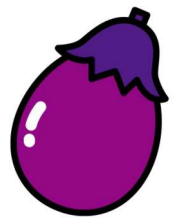


ナスビの学校



経験が論語に進化する

第3学年の国語科で、意欲的なチャレンジが展開されました。第3学年の生徒たちと国語科担当・後藤由紀先生によるチャレンジです。そのチャレンジとは現版「論語」の創造です。

3年生の生徒たちは、国語科授業のなかで「論語」について学習しました。「論語」とは、古代中国を舞台に、孔子が遺した教え(言葉や問答)をその弟子たちが記録した書物です。代表的なものとして「故きを温ねて新しきを知る」

(昔の人の書物をよく読み習熟して、そこから今に応用できるものを知る)などがあります。「論語」は私の私たちにも「生きるヒント」を与えてくれます。

論語を学習するにあたって、後藤先生は考えました。「論語」について学ぶことは大事だ。でも、それだけではもったいない。(論語についての学び)から、(論語

「論語」が現代によみがえる…… 3年国語科の大挑戦!!

●作成した理由
テスト勉強は、教科書を見るだけ終わるのでは全く効果がなく、問題を解いて間違えてより追求して学びを深める方法を、本当に自分の知識を身に付けてほしい。応用問題を解けるようになる点教がめあてを考えているから。

●自分流「論語」
李總 曰はく、
「物事は、聞かぬ終わらぬ実践して間違えながら追求してこそ、自分の知識といえる。」



●自分流論語のパターン・カード

(3年B級)の作品です。安東さんは言います。「李總曰はく、『物事は、聞くだけで終わらず実践して間違えながら追求してこそ、自分の知識といえる。』と。」安東さんは自分自身の学習経験を「教訓」として取り出し、論語のかたちで表現しました。さらにそれを「間違えてこそ知識となる」というタイトル、そのタイトルを象徴的に表すかわいらしいイラスト、「こんなときは、こうしてみよう」という行動アドバイスとしてパターン・カードに「変換」しています。これによって、安東さん「だけ」の教訓だったものが「みんな」にとって役立つ教訓へと変化しました。それはちょうど、孔子が遺した言葉たちが、現代の私たちに「生きるヒント」を与えてくれるかのように……。

■論語は、昔のパターンランゲージみたいなものかと思っただけ。せかっくパターンランゲージを作ったから、すっかり活用していると思う。

■今回の人生訓の作成で、今まで自分が振り返りたくなかったことに向き合えた。解決策を考えることができた。このように、自分の失敗を放置せず、逃げずに向き合っていたい。

■自分の成功談や失敗談から論語をつくる時、教訓を自分の言葉で表現すると、頭で考えているときよりも、説得力が増すと感じた。

■自分の体験談を見方にする、人生訓が上手にかけるので、これからは、たくさん自分のことを体験したい。

「キャリア」という言葉の語源は「わだち」です。わだちとは、馬車が何度も通ったあとにできる道のことで。つまり、キャリアとは「自分自身が歩んできたことのできた道」のことです。そしてその道は、前を向いて歩いていくなかで、ふりかえったときに確認することのできる道でもあります。宮大附属中が様々な場面で「ふりかえり」を大事にする理由もそこにあります。

第3学年の国語科授業を通して、生徒たちは「これまでの自分が歩んできた道」をふりかえることができたのではないのでしょうか。さらに言えば、ふりかえりを通して、そこから未来を向く(再び前を向いて歩いていく)ための教訓を引き出すこともできたのではないのでしょうか。経験から学ぶことの意味はここにあります。

宮大附属中が目指すキャリア教育の姿が、国語科授業のなかにありました。国語科という「窓枠」から「未来」の景色が見えたのではないのでしょうか。第3学年の生徒たちと後藤先生の大いなるチャレンジに大きな拍手です!!

経験から学ぶことの意味